

トラック運行システム開発

ネットシステム構築の データブレーン

ネットシステム構築のデータブレーン（本社豊橋市大国町37、南原克己社長、電話0532・54・2737）は、小規模運送業向けトラック運行システムを開発した。低価格と使いやすさが特徴で、10月から受注を開始した。トラック運転手が不足し物流の停滞が予想される2024年問題に対応した商品といえる。（三遠・立松鉄洋）

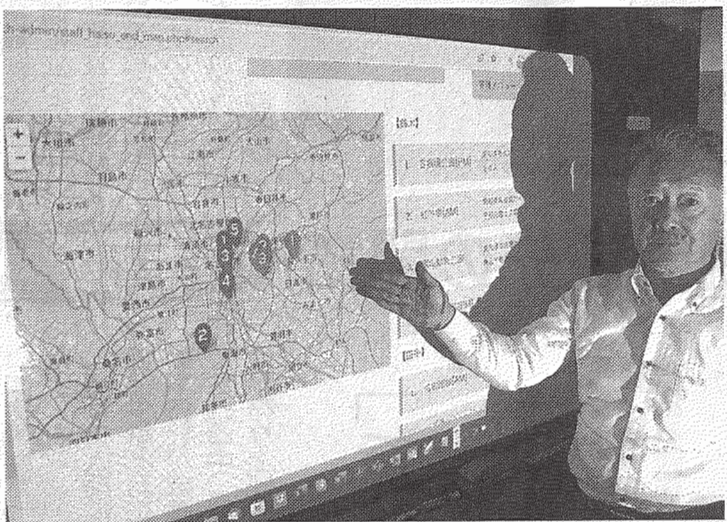


南原克己社長

小規模運送業向け 低価格と使いやすさを両立

製品名は「ルート配達システム・ルーナビ」。トラック10台前後を保有する小規模運送業の活用を念頭に置いている。初期投資は各種補助金を使うと約44万円。3年目以降は毎月1万2千円のサーバ管理費だけで利用できる。

ルーナビは、運送業者の本部に置いたメイン端末に①いつ、②何を、③どこに運ぶかの情報を入力。その蓄積を経て、配達当日にシステムがトラックのドライバーに配達順を連絡。ドライバーはその指示に従い配達することで最適なルート



本部のメイン端末の画面でトラックの現在地と配達先を確認できる

の運行管理は人間ができる。一方、トラックが100台を超える中規模・中堅運送業はシステムが複雑になり、初期投資やランニングコストが膨らんでしまう。

「に自動で伝わる。新人のドライバーや交代要員のドライバーでも安心して配達できるという。このほか顧客管理や配達履歴、請求書発行なども連動させることができる。南原社長は「この配達を、どのドライバーに割り振るかまで自動で決めるシステムだと、1千万円を超える初期投資が必要になる。投資と利便性のバランスが重要で、今回は小規模運送業に照準を合わせた。2024年問題解決の一助になるのでは」と話す。

当日入った急な配達先の変更や追加も、本部のメイン端末に入力することで最適なルートに上書きする。トラックには通信機能を持った端末を搭載。本部のメイン端末ではトラックの位置情報をリアルタイムで把握できる。複数のドライバーにどの配達案件を割り振るかは本部の人間が決める。

食品や飲料、日用雑貨の配達を主な対象に想定した。配達先の駐車場位置や窓口担当者の個人名などの

三河・静岡

三河支社

岡崎市明大寺町寺東 鈴熊ビル

TEL0564(52)2 FAX0564(54)2

刈谷支局

刈谷市相生町2-11 佐藤会計ビル

TEL、FAX兼用 0566(21)6

三遠支局

豊橋市萱町21 佐藤ビル3階

TEL0532(54)2 FAX0532(35)7